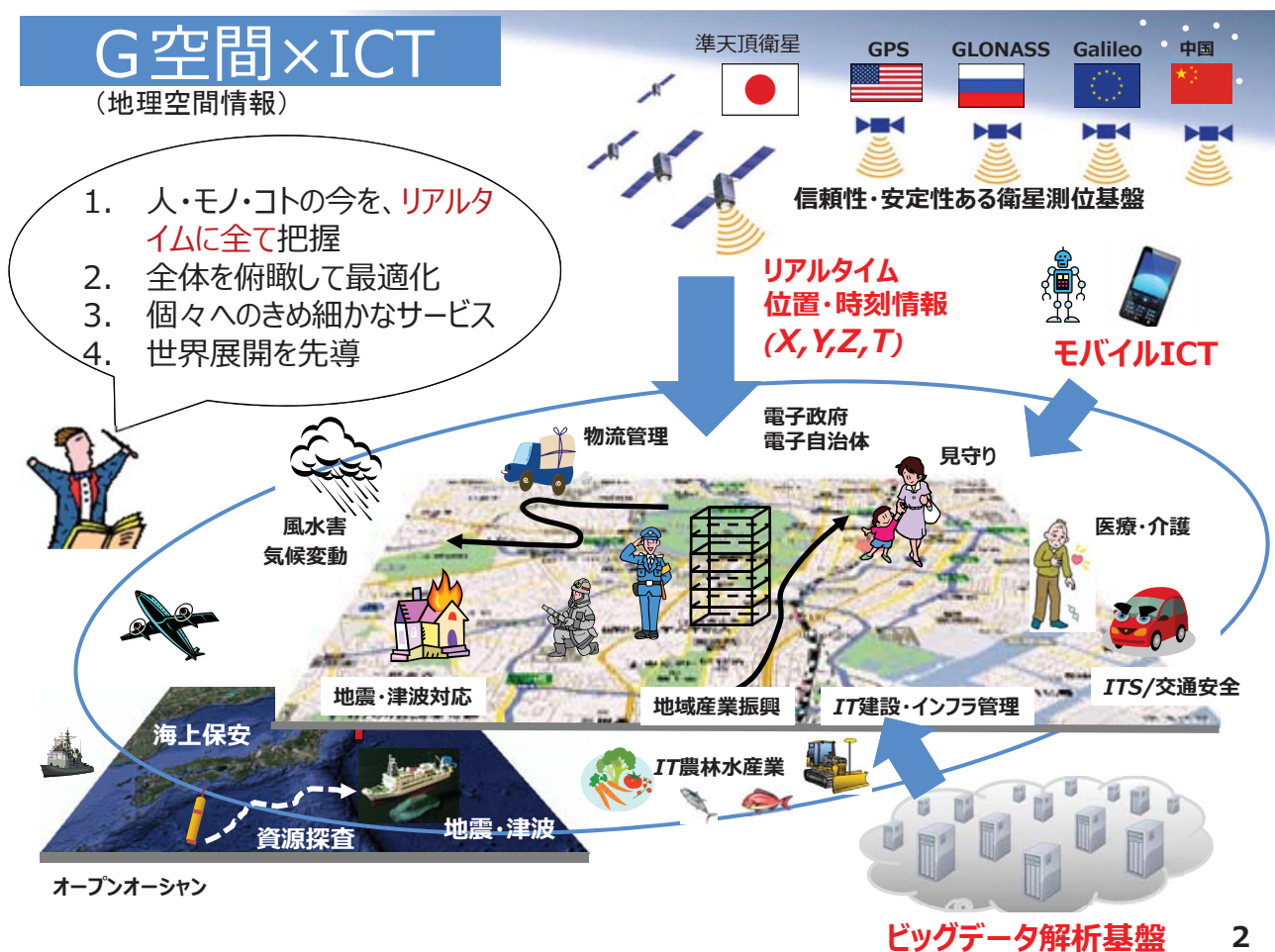


「G空間×ICTからみた 防災・減災対策の推進」

東京大学・空間情報科学研究センター
柴崎亮介
(G空間×ICT推進会議 座長)

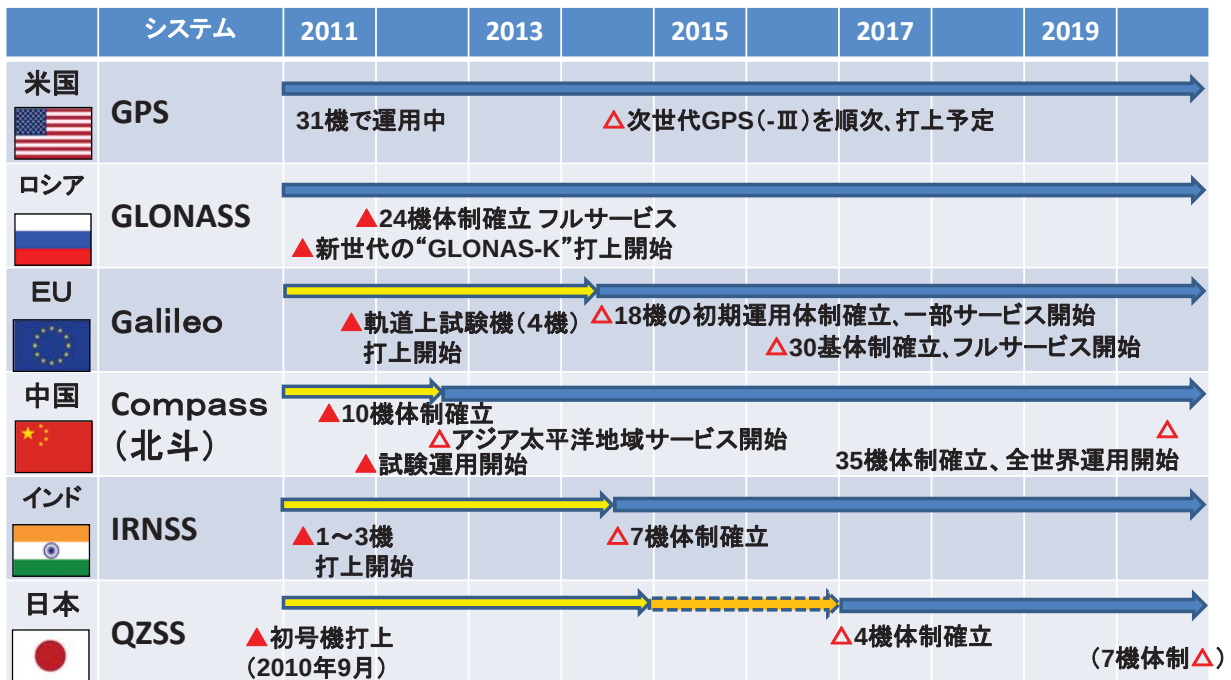
1



2

各国の測位衛星の配備計画

GNSS(世界の測位衛星システム)の行程表



(自民党・新藤議員資料)

→ 開発 → 運用

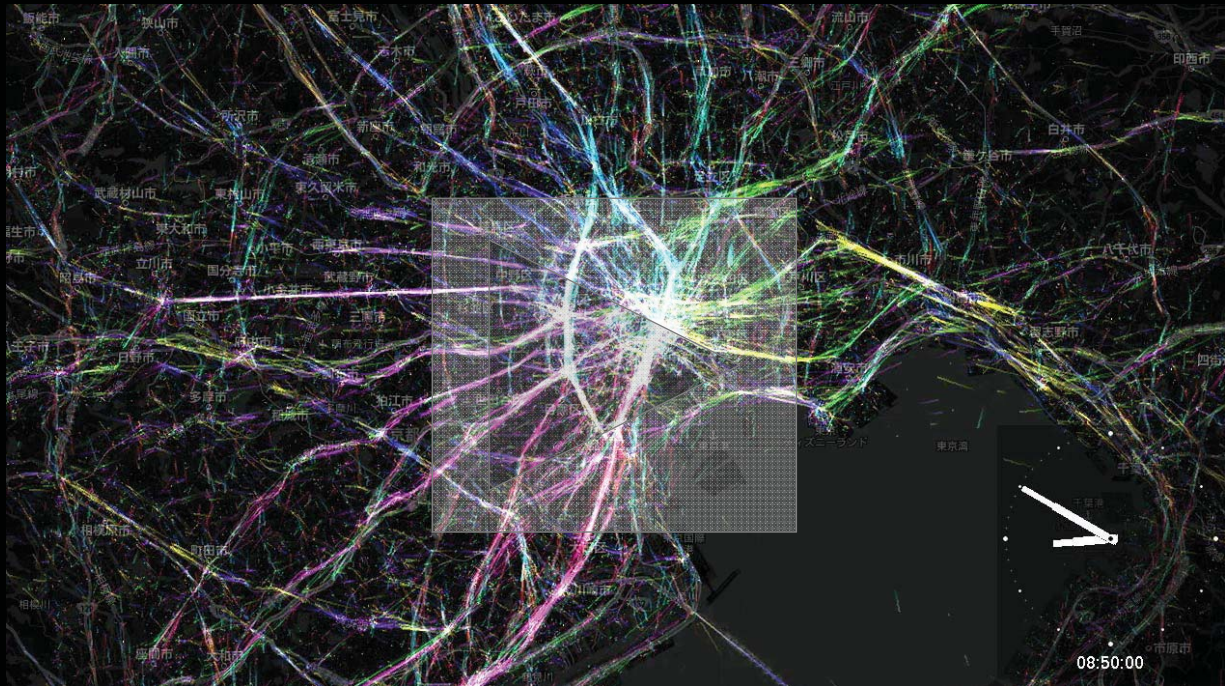
3

「G空間×ICT」



実世界・実空間に密着し、
生活や環境、産業活動に直接寄与する
ICTの最先端活用

災害対応を革命的に変える可能性



1week

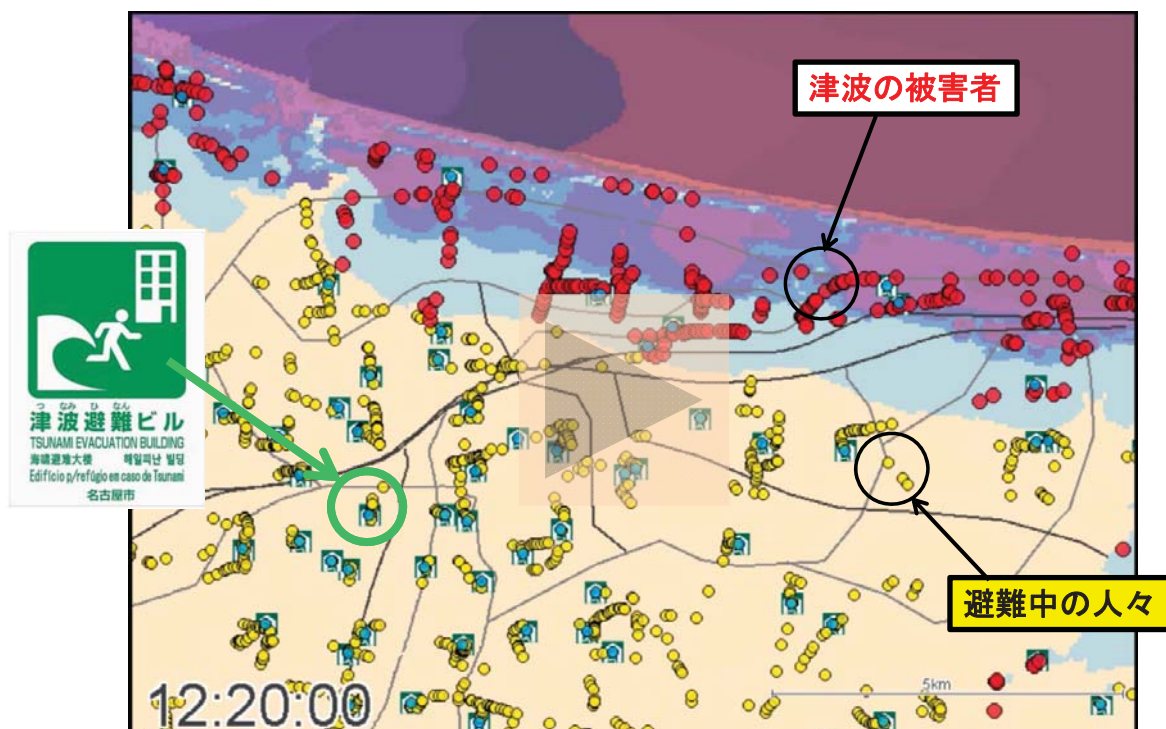
All Japan

Data is provided by 混雑統計® ZENRIN DataCom CO., LTD

5

津波からの避難シミュレーション

➔リアルタイム位置情報を用いると、実際の状況を見ることが可能



6

海の安全を見守る

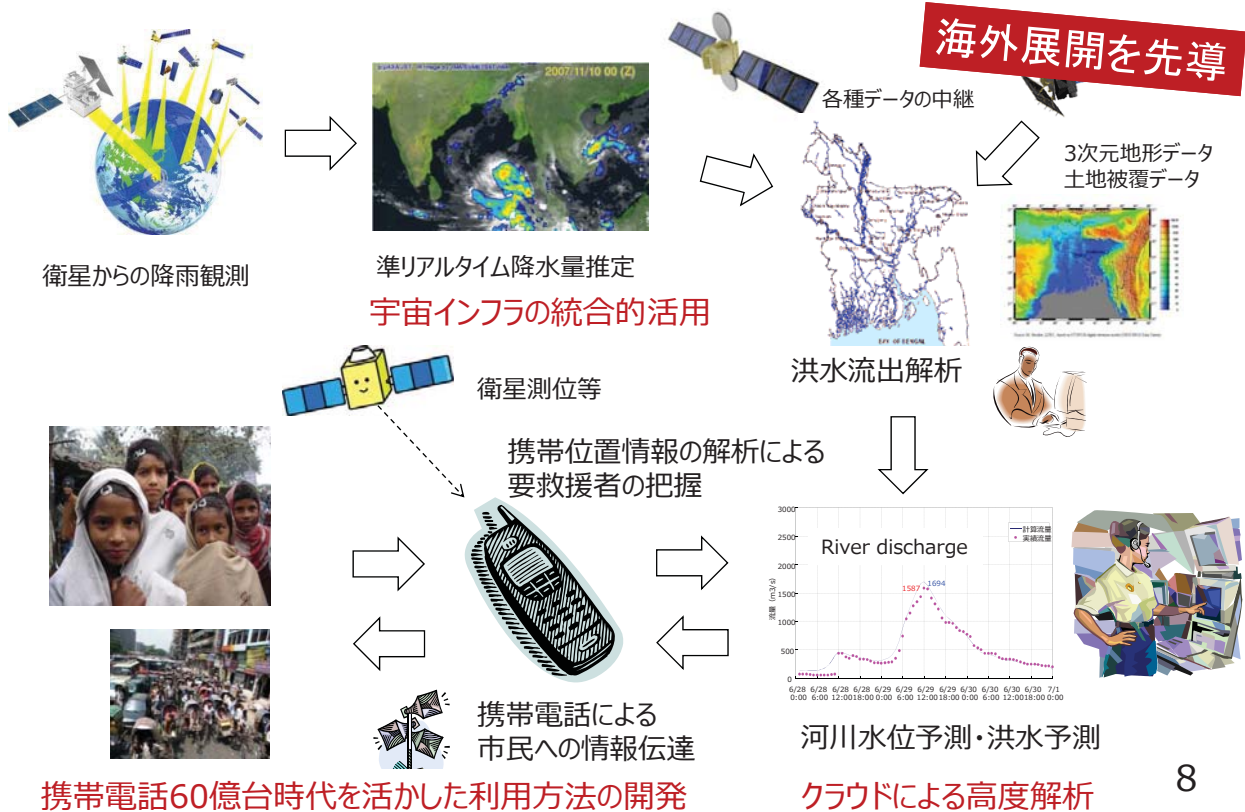


AIS: Automated Identification System (船舶の自動認識システム)

<http://www.marinetraffic.com/ais/jp/default.aspx>

7

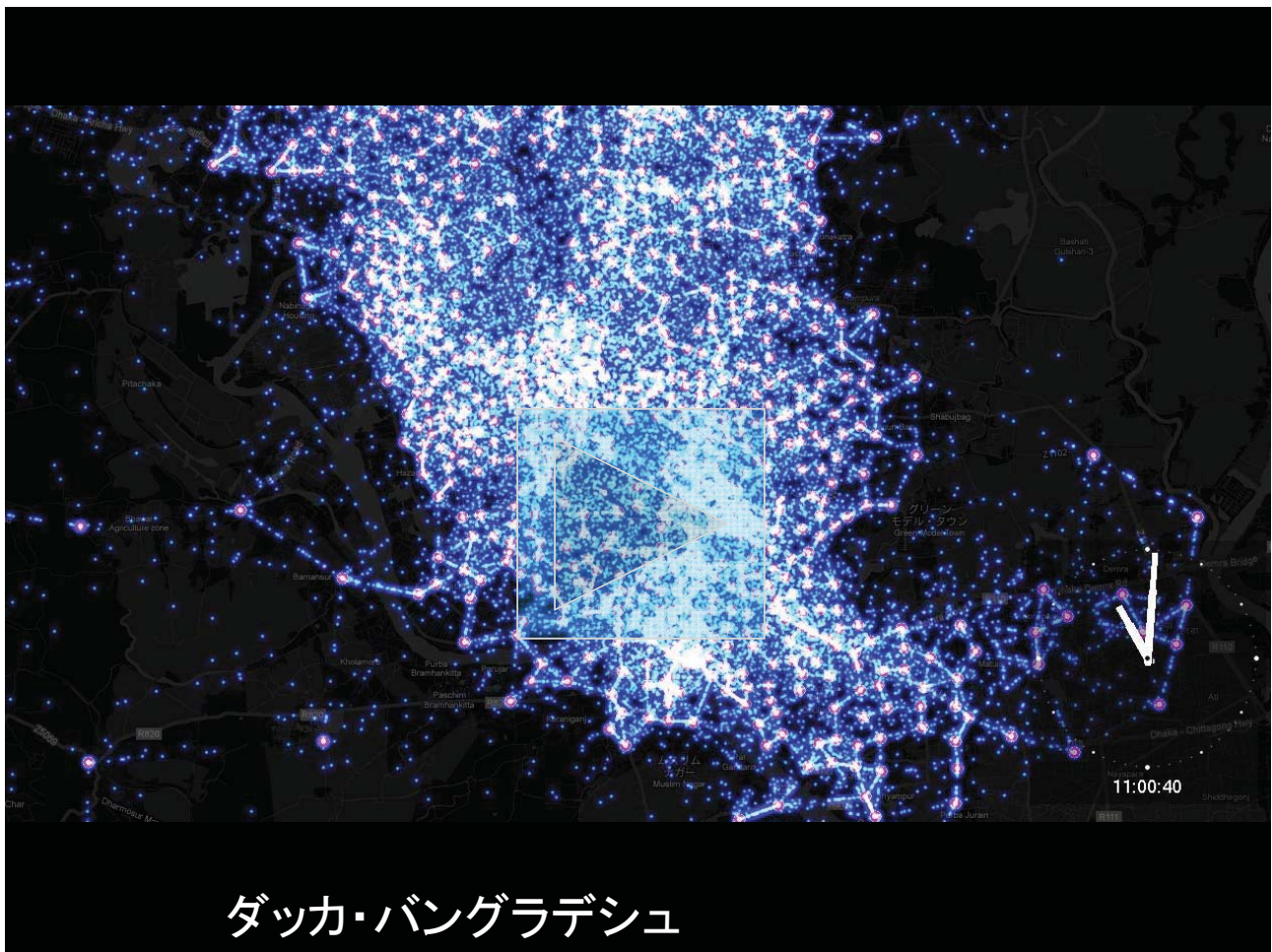
宇宙インフラ＋G空間情報を利用した洪水警報サービス (アジア開発銀行、JAXA、東京大学等)



携帯電話60億台時代を活かした利用方法の開発

クラウドによる高度解析

8



災害対策の標準化に向けて

- 人や車の移動に関する情報の分析・集計・見える化の手順を改良しつつ、進め方や体制を「標準化」する。
 - ◀現在は、「気持ち悪いと言われること」を恐れ、同時に「どう使ったらいいのかわからない」状況で前に進めない状態。
 - ➡利用法の研究、データ交換標準の開発など（産官学）
 - ➡利用体制の確立、ただしその後の進歩を止めてしまわないようなフレキシブルな体制（例：特定の人・組織だけしかデータを扱えないとすると、進歩が止まる。資格要件の見直しを常に行い、学術研究には大きな自由度を認めて、手法等の絶え間ない改良を進めることが不可欠。）
- 海外へも展開する。むしろ、海外での経験を国内に活かす位の感じで。標準化もグローバルに。